日本茶のふるさと

生産の景観

解説マップ

平成26年3月

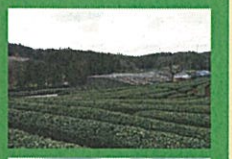
京　都　府

宇治茶生産の景観を巡るルートマップ

A 宇治市域

① 中宇治

② 白川

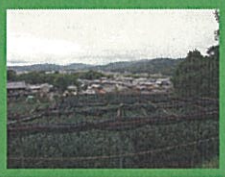


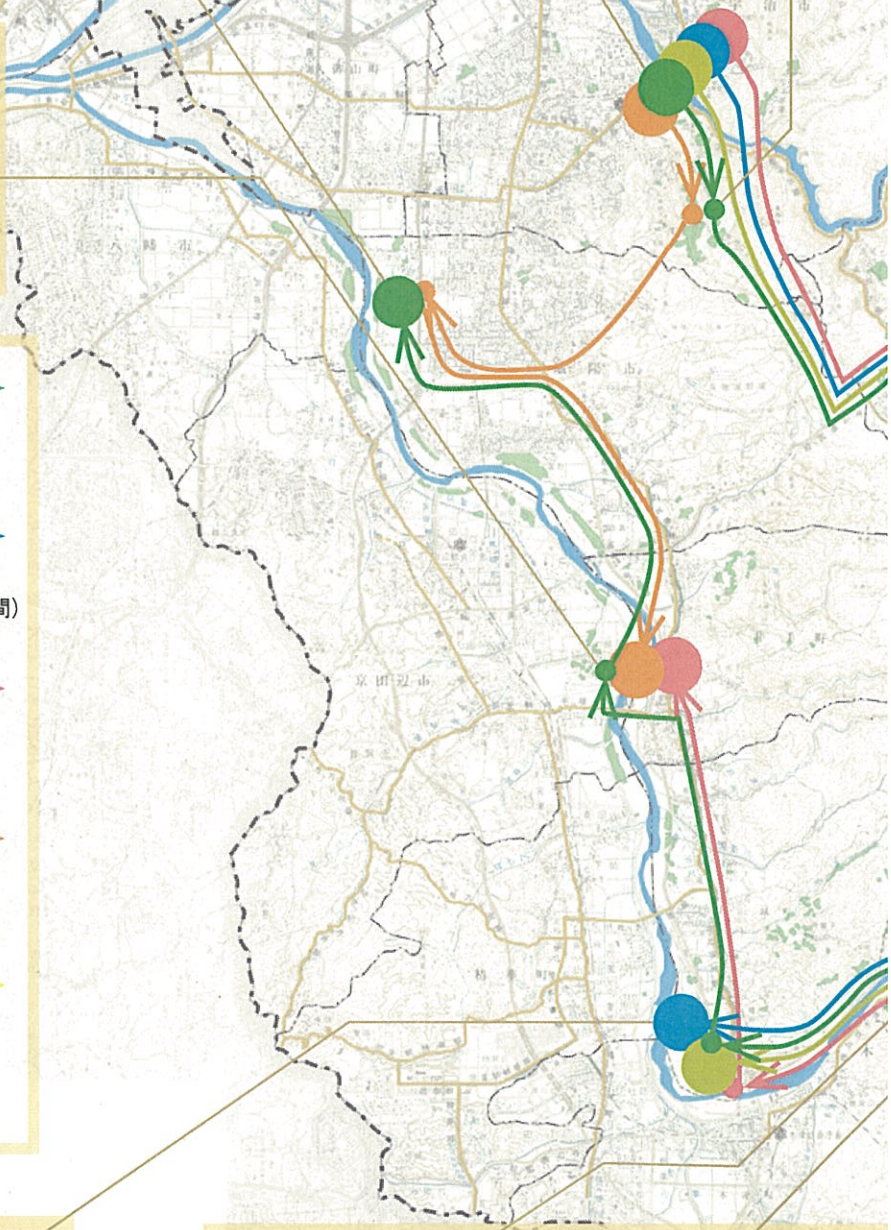
B 城陽市域

⑯ 上津屋

C 京田辺市域

⑮ 飯岡





一日コース ①～⑯
宇治茶生産の景観の全体をすべてまわるコース（約８時間）

2.5 時間コース ⅰ～ⅲ
宇治茶生産の景観の諸類型を短時間でまわるコース（約 2.5 時間）

4 時間コース ⓘ～ⅵ
宇治茶生産の景観の諸類型を半日でまわるコース（約４時間）

覆下栽培コース ㋐～㋓
覆下栽培による茶園とその製造、販売に関わる景観を巡るコース（約４時間）

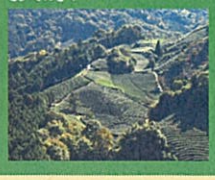
露地栽培コース ⓐ～ⓖ
露地栽培を中心とする茶園と、その製造、販売にかかわる流通経路及び茶問屋街を巡るコース（約５時間）

G 木津川市域

⑭ 上狛

⑩ 石寺

⑨ 撰原

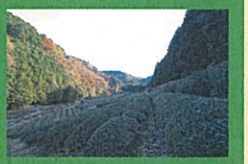


D 宇治田原町域

③ 郷之口

④ 湯屋谷

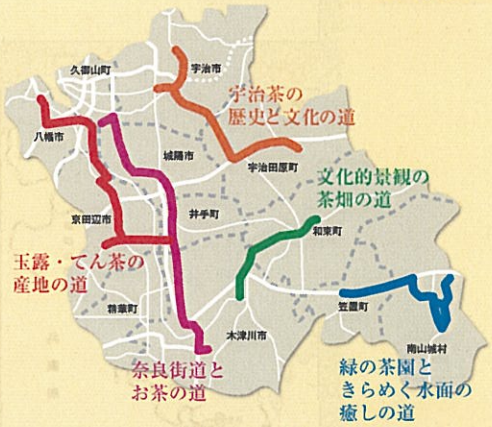
ⓑ Ⅱ ⅱ



⑤ 奥山田

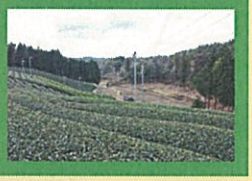
宇治茶歴史街道

最終章参照



F 南山城村域

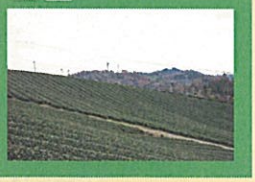
⑪ 童仙房



⑬ 高尾

ⓕ

⑫ 田山



E 和束町域

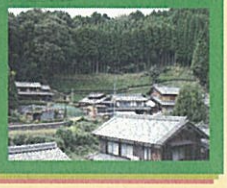
⑧ 釜塚

ⓓ

⑦ 原山

⑥ 湯船

ⓒ ⅲ

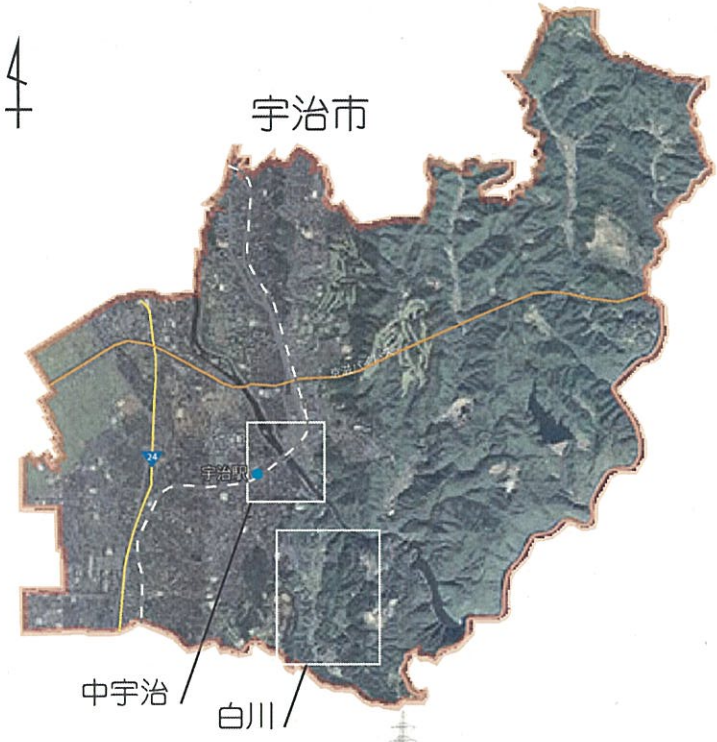


A 宇治市域の宇治茶生産の景観

中宇治、白川

⑤ 拝見窓が復原された茶問屋

宇治市の茶業の中心地である宇治橋通りでは、独特の歴史と景観の価値を活かした重要文化的景観の整備と活用が進められています。平成26年3月には、茶問屋の旧焙炉場の修復が竣工し、茶の選別をおこなう拝見窓が復原されました。



概要

宇治市域は、てん茶（抹茶）及び玉露など、茶畑に覆いをかけて栽培する覆下茶園による茶栽培をおこなう茶畑が点在するとともに、室町時代末期以来の歴史を誇る茶問屋が立ち並ぶ都市景観を有する地です。宇治の茶栽培は、鎌倉時代に始まる長い歴史を持ち、16世紀後半に他地域に類をみない**覆下栽培の方法が開発され**、質の高いてん茶などを生産してきました。また、同じ頃から**茶業を取り仕切る茶師**が頭角を現し、江戸時代を通じて抹茶などの高級茶の製造と販売を独占し、宇治独特の茶文化を育みました。中宇治には、茶師屋敷をはじめとする**茶問屋の立ち並ぶ活気のある町並み景観**が現在も見られます。

宇治川河川敷や、中宇治から山一つ隔てた白川の地には、水はけのよい砂質土壌の地質を活かして、**本簀及び寒冷紗による覆下茶園**が営まれており、てん茶や玉露が栽培されています。これらの茶園から摘まれた茶葉は、中宇治や白川の茶問屋等で乾燥、選別、合組が行われ、製品化されます。

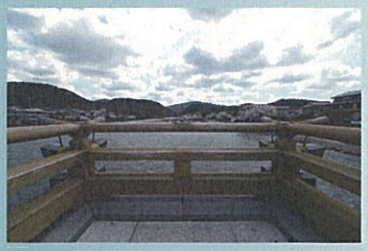
中宇治の中心市街地と白川等の茶畑は、国の重要文化的景観に選定されています。

⑥ 白川の本簀覆下茶園

伝統的な覆下茶園では、竹で枠を組んだ上を葭簀で覆い、その上に稲藁を厚く載せることで遮光し、新芽に甘みをもたらします。宇治市域では、白川や宇治川河川敷などでこの本簀の覆下茶園が営まれています。

中宇治

長い歴史を持つ抹茶生産の中核をなす市街地です。宇治橋通りを中心に、戦国時代からの宇治茶業を取り仕切った茶師の旧宅や茶問屋、茶農家が立ち並び、茶の製造と販売をおこなう茶業街を形成しています。市街地の裏手には、かつては扇状地の地形を利用した覆下茶園が広がっており、現在も市街地内や宇治川河川敷、段丘上などに茶園が営まれています。



① 宇治橋三の間から望む宇治川の景観

琵琶湖に発する宇治川は、宇治で丘陵から平地に流れ出ます。この地形変化は、扇状地の地質や朝霧のかかる気象を生み、古くは平安貴族に愛され、新しくは宇治茶生産の展開の源となりました。

② 宇治川河川敷の覆下茶園

宇治川河川敷では豊臣秀吉が宇治川の大規模な河川改修を行った際に築いた太閤堤が発見され、国史跡に指定されています。その直上には、河川敷の水はけの良い土壌を利用して、本簀及び寒冷紗の覆下茶園が営まれています。

③ 宇治橋通り商店街と茶問屋・茶農家

メインストリートの宇治橋通りには、戦国時代から茶師屋敷が立ち並び、現在も複数の茶問屋と茶農家が並びます。この歴史は、町家の軒が道路内に大きく張り出す独特の空間利用に刻み込まれ、通りの景観を個性付けています。

④ 茶工場の煉瓦造乾燥炉

宇治橋通りの町家の奥には、抹茶の原料となるてん茶を製造するための煉瓦造の乾燥炉が現在も現役で稼動しています。中宇治独特の奥行きの深い敷地形状を利用して、10m を越える長大な乾燥炉が設置されています。

⑥ 覆下・露地茶園の景観

白川の最奥、上明には、本簀を含む覆下茶園と露地茶園が谷を埋め尽くし、柿の木が彩りを添える、桃源郷のごとき茶園景観が広がります。

⑦ 白川金色院の坊に由来する棚田

覆下茶園には大量の稲藁が必要となるため、茶園には水田の存在が不可欠です。白川の棚田は、白川金色院の十六坊跡に営まれており、古くに引かれた水系を利用して水田化されたものと考えられます。

⑧ 茶農家の集落景観

白川の集落では、敷地内に茶工場を有する茶農家が、通りに沿って立ち並びます。古くは通り沿いに茶工場を構えましたが、昭和初期以降になると敷地奥に茶工場が引き込まれ、大型化します。

白川

中宇治から山一つ隔てた谷筋に展開する茶生産集落です。12 世紀初頭に創建された白川金色院を中心に、16 の坊が営まれた地で、これらと入れ替わるように、江戸時代に茶生産集落が発達しました。谷筋を埋めるように覆下茶園や露地茶園が広がり、柿の木や棚田とともに、宇治市域の茶園の原型ともいうべき茶生産景観が残っています。